克四士纪む亚 <i>伍</i> 。	,7 = I										
真岡市行政評価シ 評価対象年度	/ステム 令和6 年度	ージメントシー	<u> </u>		作点	は日 会	和7 年 04	4月21日			
事務事業名	英語指導助手(AL	担当		教育	委員会 学	校教育課	教育政策係				
政策名	1 「人づくり		□ 総重(総合計画重点事業) □ 総新(総合計画新規事業) □ 戦拡(総合戦略拡充事業) □ 戦新(総合戦略新規事業)								
施策名	3 国際化に対 _{真岡市まち・ひと・}		Τ_			新(総合戦	格新規事業 <i>)</i>				
関連個別計画		事業期間	1 =	□ 単年度のみ H1 年度~)							
法令根拠	(5.4.)		1 =	□ 申午及美施(開始年度 □ □ 年度~) □ 期間限定複数年度(年度~ 年度							
予算科目	1.一般会計	10.教育費	2.小学校費 3.中学校	2.教育	所振興費 			××-1× (——————————————————————————————————————
予算科目 											
事業概要	外国人の英語指導助手(<i>i</i> 際感覚を養う。	ALT)ならびに日本人の小	学校外国語活動支援	J 員 (JTE) を各小中	 学校に配置することにより、児主	童生徒の	英語を使ったコ	ミュニケーショ	ン能力を向上さ	*せるとともに、	国
1. 現状把握の ① 手段(主な活動 6年度実績		目的と指標	<u>(4</u>	活動指標(事務	事業の活動量を表す指標) の指 名称	_	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
ALTならびにJTEを グによる指導を実	・各学校に配置し、担当 3施した。	教諭と共にチームティ	ーチン	· 英語指導助手(AIT)数		16	16	16	16	16
・ALT:小学校7名		間10時間、小学校3年生	上: 年間								
35時間) 7年度計画 ALTならびにJTEを各学校に配置し、担当教諭と共にチームティーチン				ALT活動日数(実日数)	B	198	196	197	197	197
				小学校外国語	f動支援員(JTE)数	٨	6	7	6	6	6
グによる指導を実 ・ALT: 小学校7名 ・JTE: 小学校7名	『施する。		I I	- JTE活動日数(延べ日数)	В	527	572	593	621	621
35時間)			1								
	対象にしているのか)。	*人や自然資源等	(5)	対象指標(対象	の大きさを表す指標) の推移 名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(宝績)	5 年度(宝績)	c 年度(宝績)	7 年度(貝込)
市内小中学校児童生徒				, 小学校数	山 柳	校	14	14 平皮(天候)	14	14	14
				小学校児童数			4,339	4,229	4,192	4,021	3,877
				中学校数		校	9	9	9	9	9
				中学校生徒数		٨	2,223	2,247	2,172	2,162	2,127
			··· オ								
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ALTならびにJTEを配置することにより、英語の学習効果を高めるととも				⑥成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移 名称 単位 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度							
ALTならびにJTEを に国際理解教育を	:配直りることにより、! :推進する。	央語の子首効果を局め					0 十皮(大根)	→ 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	○ 一个区(天根)	∪ 一尺 (大順)	7 年度(見込)
				英語の学習効果	₹が高まった児童生徒の割合 	%	100	100	100	100	100
			1	中2真岡市総合学力調査	英語)の平均正答率における全国比との差	Р	+3.6	+2.5	+2.6	+1.0	+2.6
			,	全国学力・学習状況調査	「英調が好き」と答えた小学6年生の割合	%	75.1	-	-	_	_
				とちぎっ子学習状況調査	「英語が好き」と答えた中学2年生の割合	%	59.0	57.9	56.9	52.5	60.0
			1								

						1 1							
(2) ‡	(2) 総事業費の推移			単位	3 年度(実績)		4 年度(実績)	5 年原	度(実績)	6 年度(実績)		7 年度(見込)	
			国庫支出金	千円		0	0		0		0		0
	±	財·	県支出金	千円		0	0		0		0		0
投 入	事業費	源内	地方債	千円		0	0		0		0		0
量	*	訳	その他	千円		0	0		0		0		76,234
			一般財源	千円		61,019	63,176		66,655		75,117		0
事業費計(A)		千円		61,019	63,176		66,655		75,117		76,234		

*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 2. 1 次評価の部 ①政策体系との整合性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か? (評価理由) 全小中学校にAETならびにJTEを配置することにより、英語の学習効果を高めるとともに国際理解教育を推進するもので、児童の「外国人とのコミュニケーション能力の向上」に結びつく。 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市が事業に関与する必要があるか? (評価理由) 児童の国際理解教育の推進や英語教育の充実は市教育委員会が行うべき事業であり、妥当である。 ③対象と意図の妥当性 □ 対象・意図を見直す必要はない ■ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か? (評価理由) ・対象を限定・追加する必要があるか? 全小中学校の児童生徒を対象としており、妥当である。 ・意図を限定・追加する必要があるか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるかどうか?ない場合の理由は適切か? (評価理由) 学校とALT・JTEとの連携を密にし、市教育委員会指導主事が指導方法の改善等について助言することにより、さらなる英語教育の充実を図る。 ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? **有効性評価** ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ■ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名: ・類似事業はないか、統合や連携はできないか? ■ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名: ■ 類似事業はない (評価理由) 類似事業はなく、統廃合・連携できない。 ⑥事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか? (評価理由) ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか? プロポーザル方式で業者選定を行っており、ALTならびにJTE配置に係る必要最低限の事業費である。 効率性評価 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 廃止 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性) □ 統合 □ 継続 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 課題、課題の克服の方向性 GREEL、GREEU・JUNIELE ALTを小学校低学年にも配置する必要性について、検討する必要がある。 引き続き、学校とALT・JTE、そして市教育委員会が連携を密にし、更なる英語教育の充実を図っていく。 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) (1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)